



土浦市議会

県の市町村にとって、オリンピック競技大会及びパラリンピック競技大会の開催は、復興に向けて歩む人々に希望を与え、大きな力となるものであるとともに、世界中から寄せられた支援に対する感謝や敬意をあらわす好機となる。

また、世界のトップアスリートに最高の自己表現の場を提供することにより、未来を担う子供たちに新たな希望を与えることができるものであり、スポーツの復興や国際交流等を通じて世界の恒久平和を願う同じ関東の一員として、東京に近隣する本市にとっても、大いに意義のあることである。

よって、土浦市議会は、2020年開催の第32回オリンピック競技大会及び第16回パラリンピック競技大会の東京招致を強く求め全力で支援する。

以上、決議する。

保健福祉部長 茨城県は、障害福祉サービス事業所等で働く障害者の収入の確保と工賃水準の向上を目指し、平成24～26年度の3カ年の目標工賃を、それぞれ月額1万1千500円、

質問 県の障害者工賃向上計画では、授産施設ごとに工賃計画の目標を設定するとなつてゐる。つくしの家の受注事業者の数、平均的工賃について伺います。



竹内 裕 議員

土浦市障がい者計画の施策推進について

一般質問

一般質問は市政全般について、市長など執行部の考え、方針などを質問することです。各議員の一般質問の中から一つ取りあげて要旨を掲載いたします。

1万3千円、1万5千円と設定している。

市で運営しているつくしの家の就労継続B型事業の賃金の状況は、市内11社から仕事を請け負い、平均工賃は月額で、平成22年度が7千929円、平成23年度が7千587円となっている。

今後の工賃向上対策として、文書の封入を作業メニューに加え、来年度、市からの受注が得られるようお願いをしている。

また、国の補助事業である商品開発や販路拡大等を支援するアドバイザー派遣活用について、県の事業内容が決定次第、市としても活用を検討してまいりたい。

しかし、利用者の高齢化という問題もあり、そのライフステージに合った作業の導入も重要となるので、指導員と協議検討しながら、工賃向上に努めていきたい。

(掲載以外の質問事項)

・生活保護世帯の現況と対策
・市民後見人制度の実施



エピペンの使用等教職員向けの講習会と対応マニュアルの作成について



吉田千鶴子議員

質問 児童生徒のアレルギー対応策を講じることは、重要と考える。小児アレルギー専門医による講習会の開催や緊急時対応マニュアルの作成について伺います。

教育部長 エピペンは、アナフィラキシー反応を緩和するアドレナリン自己注射薬であり、現在、食物アレルギーのため、エピペンを所持している児童生徒は、小・中学校で数名いる。該当する児童生徒が通う学校では、全教職員がエピペンの使用方法を習得するとともに、緊急時の連絡体制等のマニュアルを作成し、情報を共有している。また、管轄の消防署とも連携し、緊急時の対応に備えている。

保健福祉部長 平成25年2月1日現在、医師からエピペンを処方されている入所児童はいないが、今後、入所することも想定されるので、国の保育所に

おけるアレルギー対応ガイドラインに沿って、保育所の対応マニュアルが最新のものとなるよう見直しを図ってまいりたい。

エピペンの使用方法等を含めた食物アレルギーについての講習会は、保育士の研修の中に取り入れ、知識普及に努めてまいりたい。

(掲載以外の質問事項)
・給食の食物アレルギー対策について
・消防行政について

定例会の詳細につきましては下記施設にあります会議録をご覧ください。なお、平成25年第1回定例会の会議録につきましては、6月上旬頃閲覧可能となります。

図書館	神立出張所	四中地区公民館
南支所	都和公民館	上太津公民館
上太津支所	一中地区公民館	六中地区公民館
都和支所	二中地区公民館	新治地区公民館
中央出張所	三中地区公民館	